

令和 7 年度

年間授業計画

教科

数学

科目

数学Ⅰ 演習

教科： 数学

科目： 数学Ⅰ 演習

単位数： 5 単位

対象学年組： 第 3 学年

教科担当者：	A組	佐合 洋彰	B組		C組		D組		E組		F組		G組	
使用教科書：	数研出版 改訂版 リンク 数学演習Ⅰ・A													

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能・応用力を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

科目 数学Ⅰ 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及びについて、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解、事象の数学化、数学的に解釈、数学的に表現・処理する技能・応用力を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察、数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単 元 1 数と式	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	数と式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学的に表現・処理できる。	多項式の加法・減法・乗法、因数分解、実数、絶対値、根号	項の四則計算因数分解の公式の利用、有理数、無理数、実数の定義を理解し、まとめたり、整理したりすることができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	10
	数や式を多面的に見たり、目的に応じて適切に変形したりすることができる。	問題集・授業用プリント	複雑な式についても、項を組み合わせる、問題を解決することができる。根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。対称式の値を求めるのに、分母の有理化や、式の変				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。対称式の値の求め				
	単 元 2 数と式	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	数と式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学的に表現・処理できる。	因数分解の応用、不等式の性質、1次不等式、絶対値を含む等式・不等式、	有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。絶対値の意味と記号表示を理解している。根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。1次不等式・連立1次不等式を解くことができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	15
	数や式を多面的に見たり、目的に応じて適切に対応することができる。	問題集・授業用プリント	身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決することができる。絶対値記号を含むやや複雑な式についても、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		不等式における解の意味について、等式における解と比較して、考察しようとする。絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。				
	定期考査（第1学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 3 集合と命題、2次関数	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	集合と命題、2次関数についての基本的な概念や原理を体系的に理解し、事象を数学化したり、表現・処理したりする。	集合、命題と条件、命題と証明、2次関数のグラフ、2次関数の最大・最小・最大値・最小値	集合の集合とその部分集合を把握している。また、2つの集合の関係、区間を用いて表すことができる。命題の真偽、反例の意義を理解し、条件の包含関係や条件を否定すること、命題の否定を導くことができる。命題の真偽、反例の意義を理解し、条件の包含関係や条件を否定すること、命題の否定を導くことができる。また、2次関数と一般形から標準形に変換できる。平方完成を利用して、2次関数のグラフの軸と頂点を求め、グラフをかきこける。また、2次関数のグラフと対称軸の一致の式を適用して、2次関数の対称軸の式を求めることができる。2次関数の対称軸の式を求める場合に、最大値、最小値を求めることができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	15
	命題の条件や結論に着目し、目的に応じて適切に対応することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す。式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。	問題集・授業用プリント	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。2次関数一般形のグラフを、標準形のグラフをもとに考察すること				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、要領に証明しようとする。一般形の2次				
	単 元 4 2次関数	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	2次関数についての基本的な概念や原理を体系的に理解し、事象を数学化したり、表現・処理したりする。	2次関数の決定、2次方程式、2次関数のグラフとx軸の位置関係、2次不等式	2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。2次方程式において、判別式D=b ² -4acの符号と実数解の個数の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の座標とその座標が求められる。2次不等式・連立不等式を解くことができる。2次不等式を利用する応用問題を解くことができる				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	15
	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す。式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。	問題集・授業用プリント	2次関数の決定において、条件を整理するのに通した形の式を利用することができる。2次関数の決定において、条件を整理するのに通した形の式を利用することができる。2次方程式において、判別式D=b ² -4acの符号と実数解の個数の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の座標とその座標が求められる。2次不等式・連立不等式を解くことができる。2次不等式を利用する応用問題を解くことができる				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		放物線のもつ性質に興味・関心をもち、自ら調べようとする。2次関数の決定条件に興味・関心をもち、考察しようとする。				
	定期考査（第1学期期末考査）/返却と解説						

令和 7 年度 年間授業計画 教科 数学 科目 数学Ⅰ 演習
教科 数学 科目 数学Ⅰ 演習 単位数 5 単位

対象学年組 第 3 学年

教科担当者	A組	佐合 洋彰	B組		C組		D組		E組		F組		G組	
使用教科書	数研出版 改訂版 リンク 数学演習Ⅰ・A													

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能・応用力を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

科目 数学Ⅰ 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及びについて、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解、事象の数学化、数学的に解釈、数学的に表現・処理する技能・応用力を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察、数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	単 元 5 図形と計量	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	三角比についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、三角比を用いて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	三角比、三角比の相互関係、三角比の拡張、正弦定理、余弦定理	直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ などの公式が利用できる。 $0^\circ \leq \theta < 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	15
	三角比を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、三角比の表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を身に付ける。	問題集・授業用プリント	具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。				
	単 元 6 図形と計量	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	三角比についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、三角比を用いて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	正弦定理と余弦定理の応用、三角形の面積、空間図形への応用	正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。	○	○	○	15
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	三角比を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、三角比の表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を身に付ける。	問題集・授業用プリント	三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。正弦定理を測定に活用できる。三角形の辺の長さや角の大きさや余弦定理との関係を考察することができる。三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。				
	定期考査（第2学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 7 データの分析、場合の数と確率	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、場合の数にいて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	データの整理、データの代表値、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、2つの変量の間の関係、仮説検定の考え方、順列、円順列、重複順列、組合せ、同じものを含む順列	平均値や中央値、裾野値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。仮説検定				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	14
	データの分析を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、データの分析の表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を身に付ける。様々な場合の数を求めるための考え方を理解し、必要な定理や公式を適用することができる。	問題集・授業用プリント	データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。データの中心の値から裾野にかけて離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。外れ値を見出す意義を理解し、外れ値の統計量への影響について考察することができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		データを整理して全体の傾向を考察しようとする。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察しようとする。				
	単 元 8 場合の数と確率、図形の性質	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	基本的な用語や計算方法、確率を求めるための基本的な考え方について理解する。図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、平面図形、空間図形の様々な性質について理解でき、角や辺を求めることができる。数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	確率、独立試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理、メネラウスの定理、方べきの定理	基本的な用語や計算方法理解し、適切に確率を求めることができる。図形の性質を理解し、適切な性質を利用することができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	9
	様々な確率を求めるための考え方を理解し、必要な定理や公式を適用することができる。証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できる。	問題集・授業用プリント	確率の単元・図形の性質に関心をもち、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		日常の事象や社会の事象などに、多様な確率の求め方を整理し活用しようとする。図形の性質を理解し、適切な性質を利用する姿勢を示している。				
	定期考査（第2学期期末考査）/返却と解説						

令和 7 年度

年間授業計画

教科

数学

科目

数学Ⅰ 演習

教科： 数学

科目： 数学Ⅰ 演習

単位数： 5 単位

対象学年組： 第 3 学年

教科担当者：	A組	佐合 洋彰	B組		C組		D組		E組		F組		G組	
使用教科書：	数研出版 改訂版 リンク 数学演習Ⅰ・A													

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能・応用力を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

科目 数学Ⅰ 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及びについて、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解、事象の数学化、数学的に解釈、数学的に表現・処理する技能・応用力を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会的事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察、数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎・応用力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
3 学 期	単元 9 総合問題	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現・処理できるようにする。	総合問題	既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現・処理できるようにする。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	19
	既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。		既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできる。		積極的な目標に向かう姿勢。				
	単元 10	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	19
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単元 11	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	19
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単元 12	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	10
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説						